

編集後記

『年報』一七号をお送り致します。

本号は久し振りに「小特集」を掲載することができました。社研の実態調査プロジェクト「京浜・京葉総合調査」のメンバーによる「低成長下の産業と地域・生活」がそれです。石油ショックを契機とした不況は、なかなか回復のきざしをみせません。それどころか、高度成長のひずみに加えて不況の深化のなかで、日本社会の矛盾がいたるところ噴出しています。この日本社会の実態を明らかにすることは、現実科学としての社会科学の重要な役割であろうかと思えます。またこのような社研の集団的活動が一つの成果を生みだし、それが『年報』に発表されることは社研の活動として大変望ましいことと思っています。もちろん、個々の所員の研究成果の発表の場としての『年報』の機能を否定するつもりはありません。本号にも四所員の論考を掲載することができました。

また、本号では、所員お二人の労作に対する「書評」を所外の方にお願ひしました。向井、永田両先生にはお忙がしい

なか心よく承諾していただき、内容のある「書評」を寄せてくださったことに感謝をしております。

初めて『年報』の編集を担当した者としての感想は、やっとなんとか刊行できそうだ、『年報』の編集とはこんなにシンドイものか、というのが現在の気分です。一番の気づかいは、なんとか年度内に刊行するために、執筆者各位と出版社側との連絡調整の問題でした。しかし残念ながら年度内刊行は不可能になってしまいました。

ともあれ、何とか『年報』が刊行できるのは、執筆者各位のご協力と、執筆者および出版社との連絡その他で編集担当の仕事を手付けて下さった研究所の竹内佐和子のおかげでした。ここに感謝の意を示しておきたいと思っています。

編集担当 柴田弘捷 記